



人権=心のマーク

人権啓発紙

輝きびと

R8.4.1

No.
127

発行者 大津市政調整部
人権・男女共同参画課
TEL 528-2791・FAX 527-6288

第49回 わたしと人権 ~入賞者決まる~

“人権を守る大津市民の会”では、すべての人がこの大津に住んで良かったと思えるようにという願いと期待を込め、「人権」に視点を置いた活動を続けています。

このたび第49回「わたしと人権」の作品の募集を行い、学校園や一般の市民の方々から3万点を超える応募をいただきました。

今号は、これらの作品のうち、特別賞を受賞された作品の一部をご紹介します。それぞれの作品に記された貴重な体験や思い、願いから、自分や他人の人権について考えてみる機会になりましたら幸いです。

ポスターの部 特別賞

★さわやか賞



滋賀大学教育学部附属小学校
5年(当時) 日下部 璃衣さん

★すこやか賞



瀬田小学校 1年(当時) 中谷 愛梨さん

★ふれあい賞



和邇小学校 1年(当時) 松井 琴望さん

★ほのほの賞



志賀北幼稚園 4歳児(当時) 澤 乙葉さん

★ときめき賞



膳所幼稚園 5歳児(当時) 細川 葉菜さん

標語の部 特別賞

★ほのほの賞

小野小学校 2年(当時) 岩本 桜クロエさん

友だちと かぞくはいつでも そばにいる

★すこやか賞

皇子山中学校 3年(当時) 矢橋 麗嘉さん

ありがとう たった五文字の おまじない

★ふれあい賞

瀬田東小学校 6年(当時) 堀 詞人さん

信じあい お互い様の 心がけ

★ときめき賞

打出中学校 1年(当時) 藤田 紗羽さん

みんなが持つてる自分の個性 みんなで認める他人の個性

★さわやか賞

田上小学校 5年(当時) 糸井 怜音奈さん

十人十色 いらない色は ないんだよ

作文の部 特別賞

★ほのほの賞

正義とぼく 逢坂小学校 5年(当時) 逸見亮太さん

ぼくは、ヒーロー映画が好きです。ヒーローは、世界を救うために戦います。仲間を見捨てず思い合って、最後までどんなことがあってもあきらめずに戦い、正義のヒーローとなります。観ている勇気をもらったり、カッコいいなとぼくもだれかを助けたり、そんな人になりたいと思うからです。

だけど、ぼくたちが生きている社会に目を向けると争い事がたくさん起き続けています。今一度、正義とは何なのか、正しいことをするとは何なのか考えようと思いました。ぼくたちの生活の中でルールや規則はたくさんあり、それを守ることは大事です。学校生活の中でもルールや規則を守らなかつたりすると、お互いに注意し合うのはとても大切なことだと思います。

ですが、日頃クラスの仲間や友だちと意見のちがいや、やってはいけないなあと思うことがあると注意をすることがあります。そんな時、自分の意見が全面的に正しいと思いがちなことがあります。仮にぼくが、正しいことを言っていたとしてもどんどんヒートアップして、こうであるべきだと自分の正しさを押しつけて言っているのではないかと感じる場合があります。自分は、正しいことを言っているのが当然だとそれが正義だと思っているのかもしれない。道徳の授業で、自分の伝え方によって相手のとらえ方がちがうことがあると習いました。

自分が良いと思うことが相手にとって悪いことに感じてしまっているのかもしれないと思いました。

インターネットやSNSで、これが正しい、これが間違っていていると個人をこっぴげきして、炎上や誹謗中傷をすることが問題になっています。学校でもささいなことからかげ口や悪口が変わって、それが不登校やいじめの原因にもつながってしまいます。戦争も自分の国が一番正しいと思っその正義を守ろうとしてなかなか終わることができません。ぼくは、正義をふりかざして何を言っても許されるわけはないと思います。意見のちがいや対立があってもすぐに間ちがつているとは決めつけず、お互いに話を聞いて認

め合って受け入れることが大切だと思います。そして、人は命や心があるんだから常に耳をかたむけて、いつでも寄りそえる人になりたいと強く思いました。これがぼくが思う正義だと考えます。

道徳の授業で自分のことをふり返ることができて良かったです。

★さわやか賞

黙過と無関心

東大津高等学校 3年(当時) 谷津夕子さん

「黙過」について、最近深く考える機会があった。辞書で引くと「黙って見逃すこと」という類の説明がなされている。場合によっては重い罪に問われる。ではなぜ「黙過」が罪とされるのだろうか。

それは、「黙過」が問題を知っていながらあえて声を上げずにいることだと把握されるからだろう。知っているにもかかわらず知らないふりをする行為であるからだ。問いたい。「無関心」は罪にならないのか。「無関心」とは、知ろうとしない行為である。興味が無いから、自分には関係のないことだから知ろうとしないその態度に非は無いのだろうか。

イスラエル・パレスチナ間での紛争は今もなお続いている。ガザ地区への空襲で、市民の命は現在も危険な状態にある。「天井のない監獄」と呼ばれるガザ地区の住民の人權は常に脅かされている。パレスチナに関する報道を見ながら「辛い出来事だ」と思いながらも、何事も無かったように日々学校に通っていた私は、ある意味「無関心」であると同時に「黙過」していたのかもしれない。遠い国の話だから実感が湧かなかつた、とは言えないくらい現代のメディアは進化し、鮮明に惨酷な紛争の現状を映し出している。

ある日、一つの詩と出会った。ガザ・イスラム大学の教授で、詩人でもあるリファト・アライル氏が昨年十一月に、自身のXのアカウントで投稿したものである。題は「If I must die」。訳出は*「もし、私が死ななければならぬなら」である。彼はこの詩を発表した一ヶ月後にイスラエルの空爆により、彼の妻と二十人以上の家族と伴に殺害された。その詩の中で彼は言う。*「もし私が死ななければならぬなら あなたは生きなければならぬ わたしの物語を語るために」と。自身の死を予見したような言葉

は「無関心」でいることの罪を訴えているのではないか。

遠くの国で起きている争いは長期化していくと、紛争による犠牲者の存在や起きていることへの危機感が薄れてしまふ。しかしそれは現実であり、今この瞬間も進行している問題である。それに対して、日本に住む高校生に何ができることがあるのかというと、限りなく無いに等しいのかもしれない。高校生が世界の情勢に対してできることは、知ろうとすることである。それが一番近道で、忘れがちなことだと思ふ。学校では、何度も人權に関する講義の場が設けられている。それは私たちが様々な場所で起きる人權問題に関心を向けるきっかけを与えてくれている私は捉えている。私たちが「無関心」でいることのないよう、「無関心」でいたことを後悔することのないよう。

人權の問題について、矛盾する表現であるが、無意識に「黙過」してしまうことは残念ながら大いにありうる。関心を持って向き合う姿勢で居続けたいと思ふ。

※引用……「リファト・アライル」の詩「If I must die」(imagine note)

(https://note.com/imagine_note/n/3555e64908)

※日本語訳……2024年10月13日(日)21時 NHKスペースシャル

(If I must die ガザ絶望から生まれた詩より)

★ときめき賞

友達の大切さ 長等小学校 6年(当時) 森真優さん

私は、小学校でたくさんのお話を学びました。そのうち一番大切なことは友達の大切さだと考えます。

私は低学年のときに、あまり友達の気持ちを考えずに「自己中」なときがありました。それを数年間続けていると、どんどん友達が離れていってしまい、話しかけると少し嫌がられたり、登下校の友達がいなくなったりしました。その経験をもとに私は、友達の大切さに気がきました。

この頃から私は、相手の気持ちを考えることを意識しました。だからといって本音を絶対に言わない訳ではありません。みんなと一緒にいられる時間は「当たり前」ではないので、相手から話しかけてくれたことに、心から感謝をしようと思いました。そうすると、みんながたくさん話しかけてくれました。なので、みんなが私を大切にしてくれるように、相手の気持ちも受け入れて行動し、みんなが毎日笑顔でいられる学校生活にしたいと考えました。なので、みんなが笑顔になれるような人になりたいです。

紙面の都合上、全ての作文の部・特別賞作品を掲載することができませんでした。作文の部・特別賞を受賞された方で作品を掲載することができなかったのは、次の方々です。

★すこやか賞

苦手があるってダメなこと？

瀬田東小学校 5年(当時) 柴林 知佳さん

★ふれあい賞

障がいのある人もみんな同じ

藤尾小学校 4年(当時) 黒部 陽希さん

なお、未掲載作品は大津市ホームページ上でご覧いただくことができます。※令和9年2月中旬まで



詩の部 特別賞

★ふれあい賞

みんなとわたしのえがお

瀬田小学校 3年(当時) 芦田 呼春さん

みんながね
わたしのえがおをみると
みんなが、えがおになったんだ
わたしがかなしいときでもね
みんなのえがおをみれば、ハッピーで
わたしも、えがおになれちゃうの
えがおって
みんなを元気づけるまほうだね
せいかいは、えがおでいっぱいだ

★ときめき賞

ありがとうみんな

瀬田北小学校 6年(当時) 正木 澤音さん

最後の運動会に出ていない
組体操もリレーも
足を怪我したから
土で汚れた体操服も
しめったタオルも
乾かない
運動会の日
みんなに手紙を書いた
運動会が終わったら
みんなかけ寄ってきて
「手紙ありがとうー」
「うれしかったー」
みんな笑顔で言ってくれた
やつと乾いた
体操服を着て
私も
「ありがとう」

★ほのほの賞

みんなやさしくともだち

仰木小学校 1年(当時) 西村 柚奏さん

ひとりじゃないよ
ともだちみんなだいすきだよ
ずっといつしよだよ
みんなやさしいともだちだよ
ひとりであるともだちをたすけて
なかよくならう
なかよくあそぼう
みんなやさしいともだち
みんなだいすきだよ

★さわやか賞

一歩ずつ

滋賀大学教育学部附属小学校 6年(当時) 佐々木 絆桜さん

前向きに生きること
それは過去をひきずらずに未来へ向かって
歩いているということ
今を生きる自分と向き合っているということ
だから、つまづく日もあるし、うまく進めない日も
必ずある
でも、大切なのはそこから変わる小さいようで
大事な一歩
きつと生きることにとって大きな一歩となる
そして、その小さい一歩が大きな一歩に変わったとき
過去の自分をきつとほころぶことができるだろう
今日もその日に向かって
一歩、また一歩

★すこやか賞

つっぴつっぴ

南郷小学校 3年(当時) 中川 來音さん

みんなで心を合わせてジャンプしよう
しっぴいしてもだいじょうぶ
そのままもう一どしたらいい
もうすぐ自分の番
心がわくわくドキドキする
自分のときがきた
速くできた
うれしかった
一位をとれてうれしかった



その他の部 特別賞

「その他の部」は、作文・詩・標語・ポスターの4部門以外の方法で表現された作品部門です。一つの作品ながら、多くの人による人権についての思いや、考えが詰まったものになっています。

★ほのほの賞



夢 ～みんなちがって みんないい～
第1ブロック 小松・木戸・和邇・小野小学校
共同作品



★すこやか賞



しんゆう
瀬田小学校 3年4組(当時)



ご意見やご感想

〒520-0047
(大津市浜大津四丁目1-1
明日都浜大津1階)

大津市 政策調整部
人権・男女共同参画課
(☎528-2791) まで

あとがき

今回、特集した「わたしと人権」の作品には、日常生活の中での人との触れ合いを通じて感じたこと、社会の問題に対する自分の考えや豊かな人間関係を築いていこうとするメッセージなど人権についての作者の各々の思いが詰まっています。

今号の作品をご覧いただくことで、市民の皆さん一人ひとりが人権を尊重することの大切さについて、今一度振り返っていただく機会になりましたら幸いです。

※人権を守る大津市民の会は、現在、地域、職域を合わせて23団体が結集する市民団体です。駅頭・街頭啓発をはじめ人権作品の募集や入賞作品展の開催など、幅広い啓発活動を市民ぐるみで展開しています。